

キッズリパブリック東戸塚では「イベントを開催できない期間もお客さまと繋がってほしい」という思いから、この通信とキッズリパブリックアプリで情報発信を行っています。お子さまとのおうちでの生活にご活用いただければ幸いです。

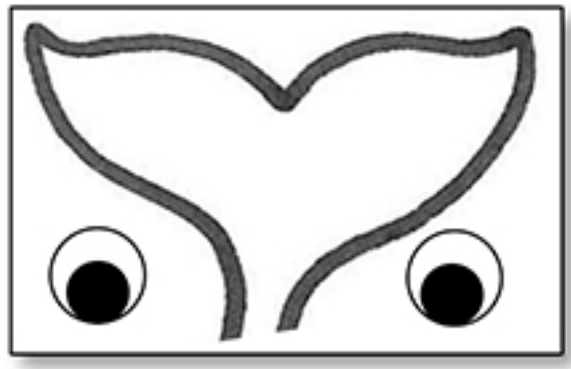
おうちにあるもので

## つくってあそぼう

### 『くじらのジャンボふうせん』

ゴミ用のポリ袋がくじら雲のように空を飛ぶよ！

- 材料●  
45リットル程度のポリ袋2枚  
セロテープ／輪ゴム2本  
はさみ／ドライヤー／画用紙  
油性マジック



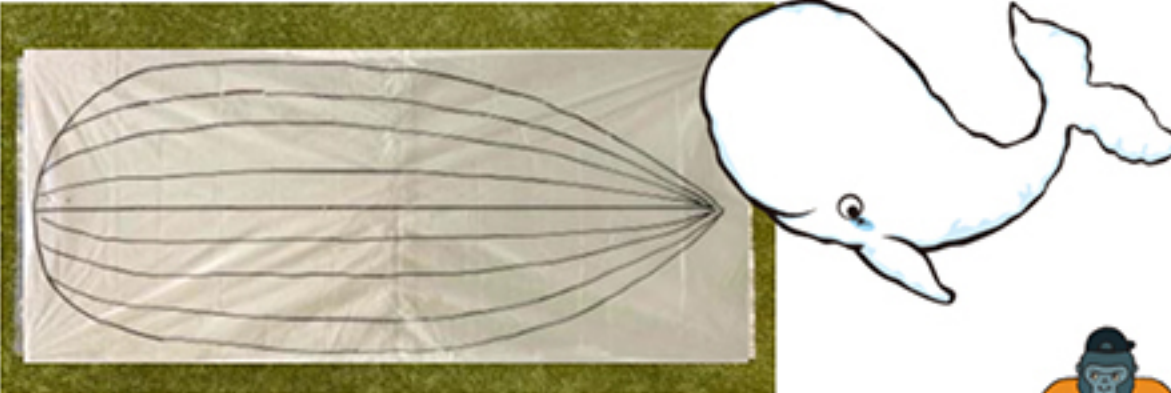
今回は大きすぎるので、切りとるパーツではありません。画用紙に目玉と尾ヒレを描いて切りとってくださいね！



1 1枚のポリ袋の口にもう1枚の口の部分を入れて、空気がもれないようにセロテープでしっかりと貼ります。



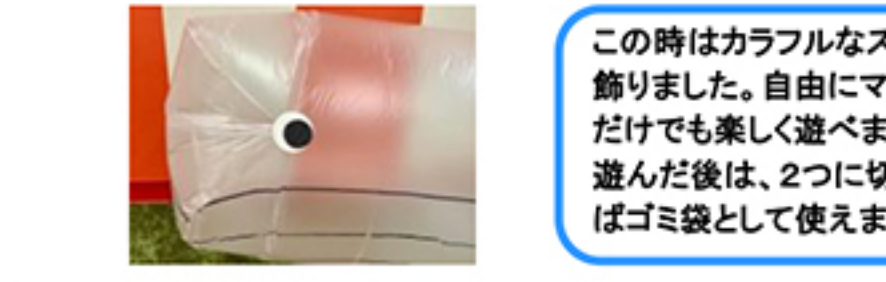
2 油性のマジックでお腹の模様を描くとくじららしくなるよ！



3 角を少し切ってドライヤーで空気を入れ、パンパンになったら、輪ゴム2本で口を止めます。\*ドライヤーの設定は必ず「冷風」で！



4 角をセロテープで止めて丸みを出し目と尾ヒレをついたら完成！



この時はカラフルなスズランテープで飾りました。自由にマジックで絵を描くだけでも楽しく遊べます。遊んだ後は、2つに切って穴をふさげばゴミ袋として使えますよ！

## 今、私たちにできること

～お子さまの笑顔が見たくて～

「いつからイベントやりますか？」—この質問をいただかない日はありません。まだ以前のように戻ることは難しい状況ですが、少しずつでも前に進むと、今できることを模索しています。現在の取り組みをご紹介します。

- ★キッズリパブリックアプリでの親子工作配信
- ★リパブーひろば大型モニターを使っでの様々なコンテンツ放映(読み聞かせ・工作・クイズ等)
- ※ひろば内にはお入りいただけません
- ★リパブーマーケットレジでの工作キット配布
- ★お誕生日の王冠プレゼント(事前予約制)



## 行事食のすすめ

「行事食」とは、折々の季節の行事やお祝いの日食べる特別な料理のこと。旬の食材を取り入れたものが多く、季節の風物詩ともいえます。

- 7月の行事食(※の日付けは2020年の場合)
- 1日※ 半夏生 たこ
  - 7日 七夕 そうめん
  - 21日※ 土用の丑 うなぎの蒲焼き

### ※半夏生(はんげしょう)って？

季節の移り変わりをよりの確につかむために設けられた特別な暦日『雑節』の一つ(節分や土用も雑節)で、夏至の日から数えて11日目にあたる日。農作業の大事な節目となる雑節で、「半夏生の頃までに田植えを終えるべき」とされていました。主に関西では、半夏生にたこを食べる風習がありますが、これは、8本のたこの足が四方八方に広がっていることから、「植えた稲の根が、たこの足のように四方八方にしっかり根付いて育ってほしい」という願いを込めて食べられるようになったといわれています。

### \*七夕にはなぜそうめん？

中国では7月7日に「素餅(さくべい)」を食べる習慣があって、これが日本に伝わったとされています。「素餅」は小麦からできたお菓子でしたが、それが素麺(さくめん)→素麺(そうめん)と変化していったとされています。天の川や、おり姫の織る糸に見立てているという説もあります。



### \*土用の丑(どようのうし)で売上げアップ！



土用は、立春・立夏・立秋・立冬それぞれの前、約18日間を指し、このうち十二支の丑(うし)に当たる日が「土用の丑」。つまり「土用の丑の日」は季節ごとにあります。本来うなぎの旬は秋から初冬。江戸時代、有名な発明家の平賀源内が、夏場に人気のなかったうなぎ屋の店先に『本日丑の日』と書かせたところ、その店は大繁盛！江戸中のうなぎ屋も真似をしたため、土用の丑の日とうなぎを食べる習慣が急速に広まったといわれています。

季節の移ろいを肌で感じ、暮らしに取り入れる知恵がたくさん残る日本。折々の行事には、恵みに感謝し、健康を願う食事が大切にされています。家族一緒に味わい、楽しみ、季節感や行事を伝えていきましょう！